ついに明日から始まる逆単身赴任

帯広市医師会
かわかみ整形外科クリニック　川　上　義　史

この春一人娘が高校に進学しました。自宅から徒歩５分の第一志望だった地元の公立高校ではなく、帯広から２時間半離れた札幌の高校です。娘の生活が心配であるというタテマエで、妻も一緒に札幌に行くことになり（彼女にとってはこちらが第一志望だったのかもしれません）、４月からは26年ぶりに一人暮らしが始まることになりました。平成29年10月に彼女らのリクエストで新居が完成し、マンションから引っ越したばかりなのに、２年半を３人で暮らしただけでこんなことになるなんて！　晴天の霹靂とはこういったことを言うのでしょうか？　とりあえず、賃貸物件を扱う札幌の友人に連絡を取り、住む場所を決めました。

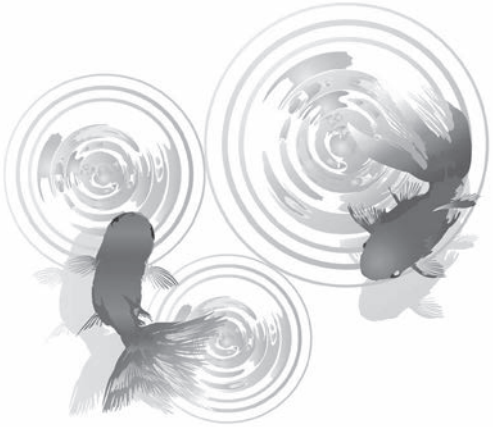
思い起こせば、約40年前に私も同じような経験をしています。父が開業していた入院施設のある医院から、家族の願いであった新居に引っ越したのが中学３年生の時でした。その後間もなく函館の高校に入学して寮生活が始まりました。親は一緒にいませんでしたので状況は多少違いますが、今でも信頼関係の厚い家族のような先輩や後輩がたくさんできました。

それゆえ地元を離れて似たような人生を歩み始めた娘に、きっと多くのアドバイスができるに違いない！と思ったのも束の間、このたびの新型コロナウィルス感染症の騒ぎによって、入学式を含めてたった３日の登校の後に休校が決まり、４月の３週目から２人は帯広に帰って来ることになります。というわけで、身の回りのことを１人でこなさなくてはいけないという決意は先送りになり、政府からの緊急事態宣言が出される直前の道東道を走り、車外に出ることもなく２人を乗せて連れ帰ってきました。

時の札幌は、PCR検査の陽性例が急増してきていた時期で、先の見えない休校が始まります。その間の授業はと言いますと、学校の先生からのネット配信で資料やら宿題やら動画やらがどしどし送られて来ていました。娘にとっては、まずはその環境に慣れることが大変なようでしたが、そのPC整備のために学校法人が生徒一人一人に資金を提供するという迅速な判断と丁寧さには流石に驚かされました。

今の子供たち世代は、スマートフォンが必要不可欠なアイテムになっているようで、通信を利用するゲーム等も身近になっていることもあり、コンピューターに慣れて扱えるようになるのが驚くほど早いことに大変ビックリさせられました。大阪万博で展示されていたTV電話をみんなが日常で手にしているのです。そんな娘の姿を、あんなに小さく生まれた娘が成長したもんだと微笑ましく眺めながらも、一人暮らしはもう少し先でもいいかな、今までと何の変わりもない３人での生活をもう少し送っていたいという気持ちが大きくなってきました。

６月に入り分散登校が始まったので、５月末に一度は札幌に送りましたが、一年生は２週目の６日間だけの登校とのことで、その期間の終了後には、またまた札幌に迎えに行きました。そのあとは２週間を帯広で過ごし、７月からはついに本格的に学校が始まることになってしまいました。３ヶ月先送りになっていた１人の生活がついに始まることになったのです。

ここに来て４月上旬と今の思いには変化があることを自覚しています。当初は単身赴任進行形の先生やMRさんの話を聞いたりすると、羨ましい気持ち８に対して同情が２だったのですが、現在では世の中の事態も思わぬ方向に進んでしまい、離れる家族に対する心配といまさら１人になる寂しさが大きくなっているようです。本日（６月28日）、家族を札幌において道東道を運転して帰ってまいりました。ちなみにこの文章の提出期限は明日です。ギリギリになり、今の気持ちを綴ってみました。

今後の家族と自分自身の健康生活と明日からの一人暮らしに不安を感じながら、この世界を揺るがしている新型コロナウィルス感染症の問題が早く収束することを切に願うばかりです。